

2020 年度事業活動報告

2021 年度事業計画



特定非営利活動法人
海外に子ども用車椅子を送る会

URL: www.kaigaikurumaisu.org

～ ご挨拶 ～

日本において、肢体不自由の子ども達は10～30万円もする高価で高性能の車椅子に乗ることができます。90%もの公的補助金が出るお蔭で、肢体不自由児を抱える多くの親は、軽微な自己負担で済むのです。私自身も障害児をもつ親の一人として、この恵まれた環境に大変感謝しています。



ところが、子どもが成長すると車椅子は相対的に小さくなり、2～3年で乗り換えねばなりません。そうして高価な車椅子は、廃棄処分の運命におかれるのが現状です。私の子どもは脳性麻痺ですが、こうした買い替え時期を迎えるともったいなくて壊れてもいない子ども用車椅子を捨てることができず頭をかかえていました。車椅子の状態が捨てるにはあまりに良いのです。

日本では捨てられてしまう運命の車椅子は粗大ごみ扱いでしょうが、海外の肢体不自由の子どもにとっては宝物です。家から出ることができない生活に苦しんでいる子ども達を一人でも救い、自由に動き回れる移動手段を提供したいと思います。高価な車椅子に乗ることは彼等にとっては夢のような話なのです。障害のある子ども達が車椅子を手に入れて行動範囲を広げ、地域の人々と広く交流し、お互いの理解を深めて豊かな人生を送って欲しいと願っています。

どうか、多くの方々にこのような日本と海外の現状をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りたいと思います。体を動かせない子ども達にとっての「夢の乗り物」、これが子ども用車椅子です。私は一台でも多くの子ども用車椅子を日本から送り出し、彼らの笑顔を見てみたい、そのような姿を頭に描きながら、力の限り日々活動に取り組んでいます。

会長 森田 祐和

2020 年度事業報告

はじめに

2020 年に発生したコロナウイルスの影響は当会の活動にも大きな制約を課することとなりました。当会活動の柱である、車椅子の収集、清掃・整備・安全確認、発送のすべてにおいて、その活動が制限され、計画を大きく下回る結果となりました。また、大きなイベントとして 2020 年 10 月には活動拠点を新たな拝島倉庫に移転しました。

1. 車椅子収集事業

肢体不自由児が通う特別支援学校や療育施設などの PTA の保護者や自立支援活動部の先生方の協力をいただき、今年度は、首都圏の特別支援学校からは 232 台、全体では個人からの提供も含めて 325 台の提供を受けました。コロナ禍の影響で例年の 70%程度の収集に終わりました。2019 年度より少ない台数となりましたが、2020 年度の贈呈国を 2 つに絞ったことにより、台数に支障がでることはありませんでした。

2020 年度の車椅子の収集台数

都・県	(学校数)	2017 年 (学校数)		2018 年 (学校数)		2019 年 (学校数)		2020 年 (学校数)	
東 京	(20)	136 台	(7)	180 台	(10)	143 台	(10)	116 台	(10)
神奈川	(18)	245 台	(12)	124 台	(9)	131 台	(7)	37 台	(4)
埼 玉	(8)	102 台	(5)	146 台	(5)	105 台	(5)	10 台	(1)
千 葉	(9)	47 台	(1)	119 台	(5)	67 台	(3)	69 台	(5)
小 計	(55)	530 台	(25)	569 台	(29)	446 台	(25)	232 台	(20)
その他学校、団体等		—	—	—	—	30 台	—	59 台	—
個 人		—	—	—	—	6 台	—	34 台	—
総合計		530 台	—	569 台	—	482 台	—	325 台	—

(「小計」は首都圏の特別支援学校からの提供台数 学校数は 2020 年 4 月調査時点の数字)

2020 年度の首都圏特別支援学校からの車椅子の提供(上記表中の「小計」を参照)は、コロナ禍の影響を受け、台数と提供学校数の双方でその数字が減少しました。台数は 50%にとどまり、首都圏における学校数は全体で 55 校あると思われますが、そのうちの 20 校からの提供となりました。コロナ感染拡大防止の観点から、この減少はやむをえないところです。

一方、首都圏以外の学校や団体からの提供と近年着実に増えている個人や一般の人からの提供が 100 台近くあり、総数は昨年度比で 70%程度となりました。今後も皆様からの継続的な車椅子の提供をお願いします。

(提供方法は当会のホームページをご覧ください <http://kaigaikurumaisu.org/>)

○車椅子収集の様子



板橋むらさき愛育園での収集の様子です。この日は車椅子 29 台、バギー5 台の提供を受けました。



東京都小平市にある緑成会整育園での収集の様子です。職員の小泉さんが積み込みを手伝ってくれました。



神奈川県中原養護学校から引き取った車椅子です。新しい拝島倉庫に収納しました。

2. 車椅子整備事業

2020 年度は、コロナ禍のために、毎月の第 3 日曜日の大人数での例会活動を開催することができませんでした。2020 年 2 月の例会を最後に 7 月までは活動を完全に停止しました。

しかしながら、そのような環境でも当会からの車椅子が届くのを待っている海外の子どもたちがたくさんいます。その子どもたちのために車椅子の清掃・整備・安全確認をする方法がないかを考えました。コロナウイルスの蔓延防止を完全にするために、10 名以下の少人数での作業で密を作らない、参加者の体温測定とアルコール消毒を必ず行い、連絡先の確認、マスク、フェイス・シールド、マウス・シールドなどの装着の徹底、開催するミニ例会の回数を増やして目標台数を確保する、として 8 月から活動を再開しました。その結果、2020 年 12 月末までに 9 回のミニ例会を開催することができました。

その後、政府による 2 回目の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出（令和 3 年 1 月 7 日）されたために、以降はミニ例会活動も停止しました。

○コロナ蔓延防止対策



例会参加票	
参加日 (Day)	2020. 08. 30
名前 (NAME)	
連絡先 (TEL)	
体 温 (Body temperature)	

(左) 一瞬で体温測定ができる体温計です。

(右) 測定した体温と名前、連絡先を記入してもらいました。後日、体調不良等の事態が起きたときに連絡を取り合うためです。



体温測定



マウス・シールド



フェイス・シールド

○整備作業の様子（9月までの羽村市での様子です）

ミニ例会活動の参加者は、相模女子大チーム、ベトナムチーム、エチオピアチームを中心に5名程度の編成で日程をそれぞれのチームに打診しながら開催しました。

参加者の総数は、年間延べ68名となりました。これは過去にない少人数でした。また、整備台数もミャンマー向けの一部となった70台でした。なお、ミャンマーには自立支援塾の協力を得て180（当会の70＋自立支援塾の110）台を発送しました。



（左）4人のベトナムチームは車椅子の整備担当です。主にタイヤ交換などを行います。
この作業では密を避けることができました。

（右）梱包作業に取り組むエチオピアチームです。複数の作業者で行わざるを得ないためやや密になりました。



久々の整備活動をミニ例会として開催しました。当日は、ベトナムチーム6名、相模女子大チーム2名、会員ボランティア2名の参加がありました。羽村市での最後の例会となりました。

9月13日(日)にミニ例会後の記念撮影

○整備作業の様子（10月からは拝島新倉庫での活動です）



（左）多摩工業高校チームの作業風景です。元顧問の高野さん、現顧問の川田先生がサポートしながら確実な清掃・整備をしてくれます。

（右）砂利面の上に畳マットを敷いて作業をします。



（左）
初めに拭き掃除を行ない
汚れを取ります。

（右）
マジックテープについた
毛玉やホコリも丁寧に
取り除きます。



（左）子ども用車椅子はその子の体に合わせた形状に作られています。フラットな状態にして送り出します。

（右）ベトナムチームの少人数での整備作業風景です。

○整備作業の様子（10月からは拜島新倉庫での活動です）



（左）恒例の昼食風景です。美味しいご飯とともに毎回話も盛り上がります。少人数ですが昼食もミニ例会の楽しみの1つです。

（右）最後に作業後の記念撮影です。多摩工業高校元顧問の高野さんと相模女子大学チーム5名（※撮影時マスクを外しています）と常連で一般ボランティアの牧野さんです。

3. 車椅子発送事業



車椅子は丁寧に梱包して、コンテナに積み込んで船便で各国へ発送します。写真はミャンマー向け180台の積み込みの様子と、車椅子を載せた40フィートコンテナを牽引するトラックです。

2020年度寄贈実績

マレーシア	2020年	6月	180台	マレーシア ドリームファクトリー
ミャンマー	2020年	10月	180台	国立リハビリテーション病院、他の3病院
		合計	360台	

2020 年度寄贈実績

2020 年度は、コロナ禍の影響で送ることができたのはマレーシア 180 台とミャンマー180 台の合計 360 台です。ミャンマーへは 180 台を 4 つの病院へ送ることはできましたが、ミャンマー国内でのコロナ禍と 2 月に発生したクーデターのために車椅子が子どもたちに届けられたかどうかは確認できていません。現地とは連絡がつかないために心配な状況です。

4. 活動広報事業

私たちの現地での活動の様子や海外の受入団体と子ども達の感謝の気持ちを具体的に支援者の方々にお伝えするために、「活動報告レポート」を発行しています。年間計画では 4 回の発行を目指していましたが、コロナ禍による活動制限のために 1 回の発行実績（第 24 号を発行）となりました。

また、ホームページで当会の活動の様子をタイムリーに広報するよう努めていますので、随時ご参照ください。

<http://www.kaigaikurumaisu.org>

さらに、当会の事業内容を紹介する冊子「世界の子どもたちに動ける自由と喜びを」を発行しています。当会の考え方に始まり、具体的な活動内容について写真や図を使い説明しています。冊子が必要な方は事務局へご連絡ください。

メール：hp-admin@kaigaikurumaisu.org

冊子の内容はホームページ「フリー ペーパー」にも掲載しています。ダウンロードして印刷することも可能です。

5. 海外の子どもたちからの絵画

当会はこれまでに 24 カ国に 8,500 台以上の車椅子を届けました。当会が送った車椅子を受け取った海外のたくさんの国の子どもたちが日本のみなさんに感謝の気持ちを伝えたいと、200 枚以上の絵を描いて送ってきてくれました。言葉の壁を乗り越えて喜びや感謝の気持ちがよく伝わってきます。ホームページですべての絵を見ることができます。是非ともご覧ください。

（海外子どもギャラリー <http://kaigaikurumaisu.org/support/pictures/> ）

6. 当会の財務状況

当会が運送業者のトラックを手配して車椅子を特別支援学校から収集します。それらを整備し、海外へコンテナで送る国内及び海外輸送にかかる費用などを計算すると、届ける国への距離にもよりますが、1 台平均約 1 万円です。それらの費用は当会の活動に賛同いただく会員の会費と支援者（個人及び団体）の寄付金と民間助成や公的助成の支援資金で賄っています。

○当会の財務状況

別表の収支報告書の通り、2020 年度は個人・企業からの寄付金や民間助成金をいただくことができ、360 台の寄贈の費用を賄うことが出来ました。しかしながら多くの企業や個人にとってコロナ禍により深刻な状態を招いていることも事実です。当会への支援などとてもできないという状況もあろうかと思えます。このため当会を支援してくれている団体や企業において、当会が目的とする海外の子どもへの支援は優先度が下がっていると思われます。当会がこれからも活動を維持・継続していくためには、更なる安定した資金の確保が課題です。

皆さんにしかできない、車椅子を海外の恵まれない子ども達に贈るというすばらしい国際支援と交流活動を、私たちの会がお手伝いできることを誇りに思います。是非これからも車椅子の提供と清掃・整備の活動参加、及び資金支援をお願いします。

7. 2020 年度のトピックス

今年度は大きな出来事が下記の通り三つありました。

7-1 活動拠点の移転

これまでの活動拠点だった羽村市から福生市の新しい倉庫に、2020 年 10 月に移転しました。新倉庫は石川酒造当主の石川氏の善意で完成しました。早速、新倉庫でのミニ例会を再開しました。



(左) 新倉庫の全景です。車椅子の収容能力は 200 台程度です。

(右) ボランティアの人がわかりやすいように看板を設置しました。



新倉庫の前で森田会長と記念撮影する石川氏です。

(左側の青の作務衣姿)

入り口の扉に会の名前とロゴ（青色）を付けました。

■ 新倉庫住所：東京都福生市熊川 7 3 番地

7-2 NHK-BS での当会の紹介番組

当会の活動の様子が NHK-BS で放映されました。30 分番組の中の一部で 5 分程度の活動紹介でしたが、非常にわかりやすく好評でした。放映後には、「テレビを見ました。ささやかですが支援金を送ります。」という寄附金を数件頂戴しました。

○番組名：「レギュラー番組への道 “コンテナ全部開けちゃいました(2)『東京港』」
[NHKBS プレミアム] 2020 年 11 月 27 日（金） 午後 11:15～午後 11:45（30 分）

7-3 国際交流基金 地球市民賞の受賞

世界の全地域において総合的に国際文化交流活動を実施する日本で唯一の専門機関である独立行政法人国際交流基金（The Japan Foundation）が運営する「2020 年度 国際交流基金地球市民賞」を受賞しました。同賞は、国際文化交流を通じて日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、相互の知恵やアイディア・情報を交換し、ともに考える団体に対して国際交流基金より授与される賞のことです。

同賞には毎年 100 件近くの応募件数があり、厳正な審査が行われます。そうした審査の結果として 2020 年度の 3 つ受賞団体に選ばれたことは大変誇らしく思います。2004 年以来、さまざまな形で支援をしてくださる多くの皆様の総力を結集することで、途絶えることなく活動を行ってきたことが評価されました。

また、車椅子の清掃・整備に関わるボランティアは年々人数が増加し、高校生、大学生、一般サラリーマン、定年退職者に加え、日本に長年暮らしている海外出身の人たちの献身的な参加もあり、車椅子の整備活動は世代や国籍の違いを超えた集まりとなっています。このように国際交流の場となっていることも特に評価されました。



市民賞の賞状



副賞 200 万円の目録

2021 年度 事業活動計画

1. 車椅子収集事業

首都圏特別支援学校 PTA の定期的かつ継続的な収集協力を得て、必要数を確保する。
ただし、当会の財政予測から今年度の贈呈可能台数は前年比で減少する見込みである。
そうした状況を鑑み収集目標は昨年より少ない 400 台以上を目指す。

2. 車椅子整備事業

- ・ 2021 年度もコロナ禍により例会活動への制限がかかると予測される。少人数でのミニ例会を開催できると判断した場合に参加者を募る。その数は 1 回あたり 5 名程度に制限する。
- ・ ミニ例会での目標の整備完了台数を確保できない場合は、作業の外部委託も検討する。

3. 車椅子発送事業

- ・ 2021 年度もコロナ禍の影響があると推測される。贈呈台数は 200 台程度にとどめ、贈呈国数も 2 か国とする。

4. 活動広報事業

- ・ 2021 年度も活動に大きな制約がかかると予想される。「活動レポート」は年間で 1～2 号の発行を目指す。
- ・ ホームページではタイムリーなお知らせやトピックスにより当会の活動の様子を周知する。

5. 活動資金確保活動

- ・ 広報活動の拡充による会員数の増加を図る。
- ・ 新たな民間助成、地域慈善団体等への申請により寄付金確保の増加を目指す。

6. 「にほんのおともだち、くるまいすありがとう」(子どもの絵の活用)

海外の子供たちが感謝の気持ちを表すために描いて送ってくれた、200 枚の絵の活用を継続して検討する。(展示会や冊子の製作など)

本年度も、一台でも多くの子ども用車椅子を海外の子ども達に届けたいと思います。
皆様のご支援をよろしくお願いします。

過年度実績と2021年度収支計画（4月1日～3月31日）

（単位：円）

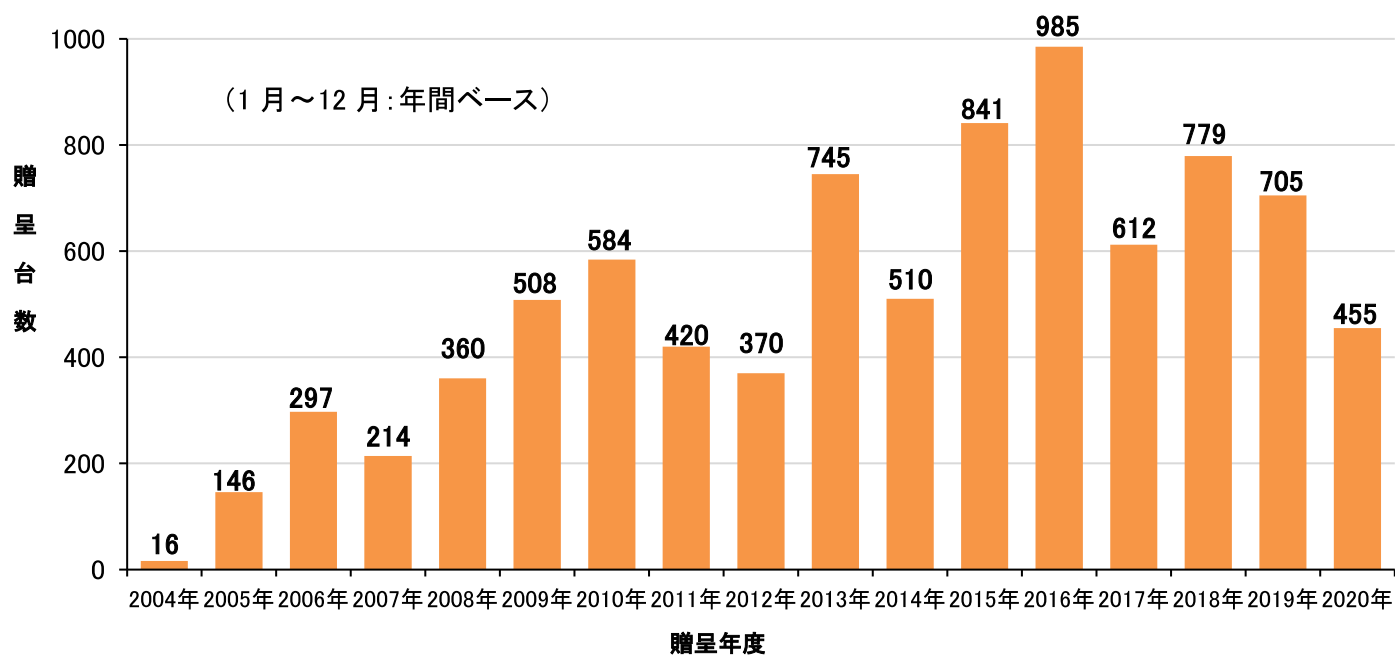
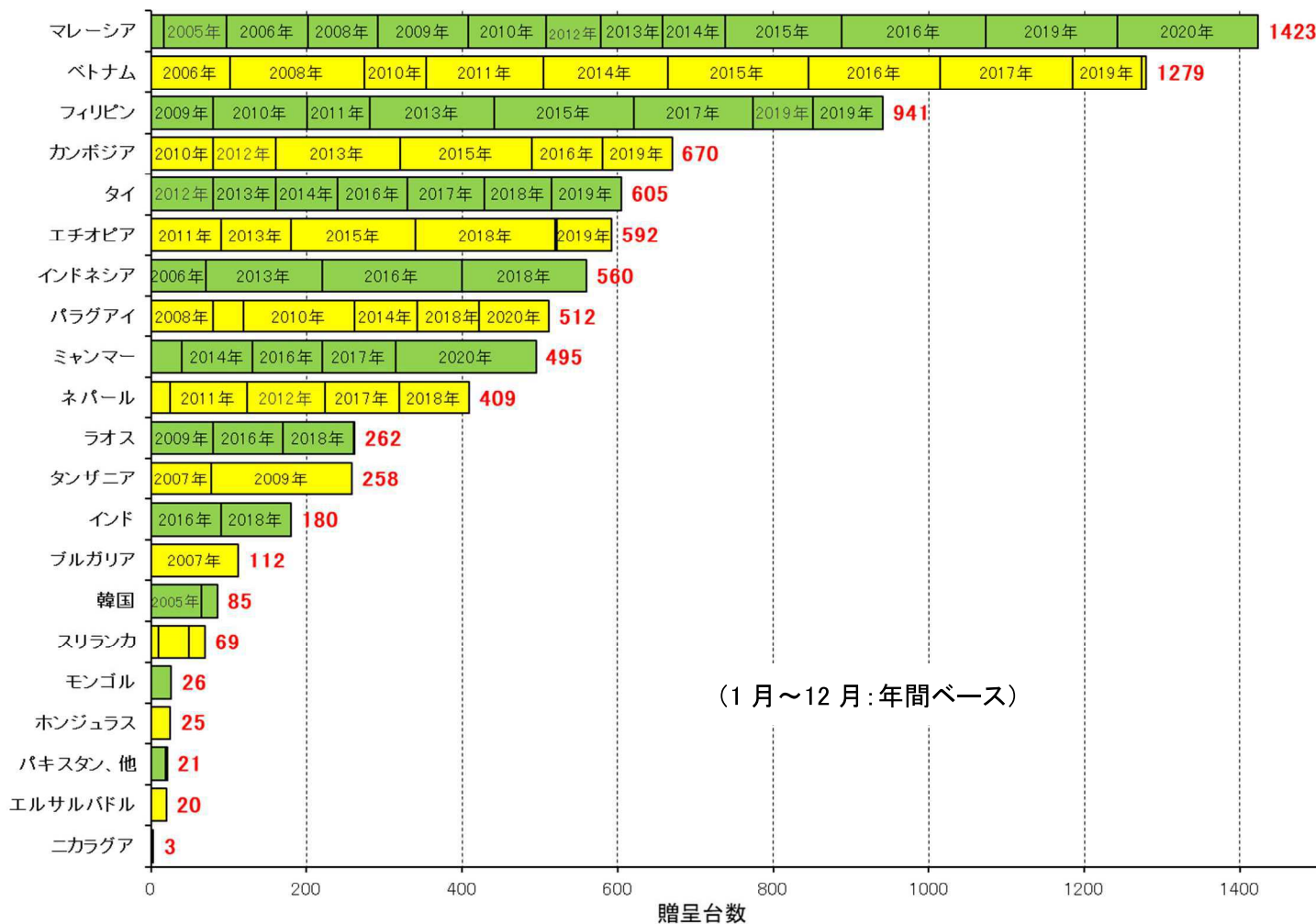
項 目	2019年度		2020年度		2021年度	
	実 績	前年比	実 績	計画比	計画	前年比
前年度繰越金	4,968,776	49%	4,273,290	100%	6,761,954	158%
収入の部						
会費収入	363,000	94%	350,000	100%	350,000	100%
公的助成金収入	0	—	0	0%	0	—
民間助成金収入	3,393,287	49%	3,152,904	105%	3,000,000	95%
寄付金収入	2,975,347	126%	2,566,027	128%	2,500,000	97%
利息収入	24	57%	26	130%	14	54%
雑収入	0	—	2,015,270	—	0	—
当年収入額	6,731,658	70%	8,084,227	110%	5,850,014	72%
支出の部						
1. 事業費						
車椅子収集事業費	683,609	39%	496,477	71%	400,000	81%
車椅子整備事業費	1,754,258	142%	1,405,506	100%	1,500,000	107%
車椅子発送事業費	4,315,305	41%	2,950,950	66%	3,000,000	102%
活動広報事業費	276,952	38%	227,827	91%	230,000	101%
事業費合計	7,030,124	49%	5,080,760	74%	5,130,000	101%
2. 管理費						
事務消耗品費	8,460	199%	11,061	138%	8,000	72%
消耗品費	37,973	120%	58,482	167%	30,000	51%
水道光熱費	0	—	0	—	0	—
旅費交通費	22,250	67%	49,666	248%	25,000	50%
支払手数料	27,989	127%	36,530	244%	35,000	96%
交際費	23,292	37%	26,850	134%	25,000	93%
支払保険料	118,676	110%	125,260	106%	125,260	100%
通信費	9,580	50%	34,050	227%	25,000	73%
複写費	51,616	62%	71,740	143%	60,000	84%
会議費	79,579	74%	72,228	103%	70,000	97%
諸会費	0	0%	0	0%	0	—
雑費	17,605	1675%	28,936	145%	20,000	69%
管理費合計	397,020	83.9%	514,803	138%	423,260	82%
総支出額	7,427,144	50.0%	5,595,563	77%	5,553,260	99%
次期繰越金	4,273,290	86.0%	6,761,954	154%	7,058,708	104%



NPO 法人

海外に子ども用車椅子を送る会

贈呈実績 24ヶ国 8,547 (2021年3月末現在)



N P O 法 人

海外に 子ども用 車椅子を 送る会

活動
レポート
2020年12月 第24号



パラグアイの 障害のある子どもたちへ

2020年2月 90台

パラグアイ向け車椅子90台を積載した本船は2020年2月24日に東京港を出港し、パラグアイの首都であるアスンシオンに5月4日に到着しました。パラグアイでも新型コロナウイルスのために車椅子配布の活動が抑えられていましたが、8月25日に現地でコンテナが開梱される様子の写真が届きました。

今回送られた車椅子は、千葉県立桜が丘特別支援学校、東京都立鹿本学園、緑成会整育園通所センター、東京都立多摩桜の丘学園、横浜市立上菅田特別支援学校、その他の学校、および個人から提供されたものです。



(写真左) パラグアイ向け車椅子の整備活動にパラグアイ駐日大使が見学、激励、お礼に来てくださいました。



ベトナム・ホーチミン市の 障害のある子どもたちへ

2020年3月 5台

ベトナム・ホーチミン市の労働傷病兵社会省ホーチミン市障害児リハビリテーションセンターに5台の車椅子を送りました。同センターは、脳性麻痺、自閉症、ダウン症、重複障害児など150名が自宅より通っているとのこと。当会はこれまでベトナム北部を中心に車椅子を送っていますが、今回は南部の大都市であるホーチミン市に初めて車椅子を送ることができました。



マレーシアの 障害のある子どもたちへ

2020年6月 180台

マレーシア向け180台を積載した本船は6月12日に東京港を出港し、マレーシア最大の貿易港であるポートケランに7月1日に到着しました。

マレーシアのパートナーは自前で車椅子を清掃・整備する技術力を有しています。今回の180台のうち34台は整備済みですが、残りの146台は未整備のままです。

整備済みの車椅子はすぐに配布されます。



ミャンマーの 障害のある子どもたちへ

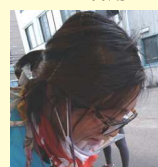
2020年10月 180台

ミャンマー向けプロジェクトでは、コロナ感染拡大にならないように配慮しながら少人数での整備活動を行いました。

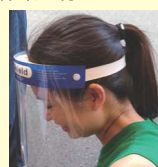
検温行い、マウスシールド、フェイスシールドを着用して作業を行いました。



一瞬で体温測定が可能な温度計



マウスシールド



フェイスシールド



このようにして整備活動を行ったミャンマー向け180台の車椅子を積載した本船は、10月8日に東京港を出ました。マレーシアのポートケラン港で第2船に積み替えられ、10月28日(水)ころにミャンマーのヤンゴン港に到着しました。これらの車椅子は、ミャンマー政府保健省傘下の4つの病院に送られます。

出航に先立って9月29日には多摩包装工業株式会社にて180台の車椅子をコンテナに詰込む作業を行いました。この作業でも多くの人が集まることはできないので、コンテナ積込作業の業務委託先である多摩包装工業株式会社の社員と数名の当会のスタッフのみで作業を行いました。



当会の活動拠点を移転しました

羽村市の多摩包装工業株式会社のご厚意で当会の活動拠点を構えたのは2013年12月でした。以来、2020年9月末までの7年間に渡って多くのボランティアが集まり車椅子の清掃・整備・梱包活動を行ってきました。また、車椅子の保管やコンテナ詰めなどの重要な活動の拠点となっていました。

この度、その活動拠点を新たに石川酒造株式会社の当主である石川彌八郎氏のご厚意で、移転することとなりました。青梅線の拝島駅から徒歩で16分程度のところへ。

海外に子ども用車椅子を送る会 拝島倉庫

住所 福生市熊川72番地

最寄駅 JR青梅線拝島駅より徒歩16分



(写真左) 新倉庫の全景です。
(写真中) 倉庫の場所がわかるように看板を設置しました。



(写真右) 倉庫の入り口扉に貼られた当会の看板を背景に、青い作業衣姿の石川当主(左側の男性)と記念撮影する森田会長です。

コロナ禍の影響で贈呈先での式典などを開催できないために、本号では海外での贈呈式の様子などの報告はありません。

当会の詳しい活動内容はHPで <http://kaigaikurumaisu.org>



The Volunteers Group
to Send Wheelchairs
to Overseas Children
JAPAN